

《担当者名》 大友 芳恵 otomo16@hoku-iryo-u.ac.jp 篠原辰二（非）

【概要】

現代社会の多様な社会問題や生活問題の中で困難を抱える「人」に対して、必要な支援が可能となるための理論や支援方法を理解する。中でも、相談援助における社会資源の活用・調整・開発に関する知識や技術を理解すると同時に、対象者の権利擁護活動を含めた実践の実際を理解する。

【学修目標】

1. 相談援助における多職種・多機関との連携の意義や役割について説明できる
2. 権利擁護活動の具体的展開について説明できる
3. 相談援助展開のための一連の各種過程の目的や方法について説明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 相談援助における対象の理解 (テキスト 1章)	・社会福祉援助活動の概念と定義が説明できる ・相談援助の対象理解の視点が説明できる ・ソーシャルワーカーの社会的必要性について説明できる	大友
2	グループを活用した相談援助 (テキスト 3章)	・人間にとっての「集団」の意味を説明できる ・グループワークの意義・展開方法を説明できる	大友
3	グループを活用した相談援助	自助グループを活用した事例を通して、自助グループ結成への援助方法や連携について概説できる	大友
4	グループを活用した相談援助	自助グループを活用した事例を通して、自助グループ結成への援助方法や連携について概説できる	大友
5	ケースマネジメントとケアマネジメント (テキスト 2章)	ケースマネジメントとケアマネジメントの意義、目的について概説できる	大友
6	ケアマネジメントの展開	ストレングスを活用したケアマネジメント	大友
7	ケアマネジメントの展開	認知症のある人へのケアマネジメント	大友
8	ケアマネジメントの展開	ケアマネジメントにおける予防の意味と方法	大友
9	記録 (テキスト 13章)	・記録の意義、目的、方法について説明できる ・記録の種類と活用方法について説明できる ・場面や必要に応じた記録がかける ・記録と倫理の関係を説明できる	大友
10	アウトリーチ (テキスト 7章) ソーシャルアクション	・アウトリーチの意義、目的について概説できる ・ソーシャルアクションの意義、目的について概説できる	大友
11	アウトリーチ ソーシャルアクションに	事例を用いて、アウトリーチやソーシャルアクションの方法検討を行い、検討案を列挙することができる	大友
12	アウトリーチ ソーシャルアクション	事例を用いて、アウトリーチの方法検討を行い、検討案を列挙することができる	大友
13	アウトリーチ ソーシャルアクション	事例を用いて、アウトリーチの方法検討を行い、検討案を列挙することができる	大友

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	相談援助と個人情報の保護の意義と留意点 (テキスト 11章)	・相談援助と個人情報保護の考え方が説明できる ・相談援助における個人情報保護の課題を列挙できる	大友
15	相談援助のための効果測定、評価の技術 (テキスト 11章)	効果測定の方法を概説できる (エビデンスベースドとナラティブベースド)	大友
16	コーディネーションとネットワーキング (テキスト 4章)	ソーシャルサポートネットワークの意義と目的について概説できる	篠原
17	コーディネーションとネットワーキング	事例を用いたグループワークで、ネットワーク形成とシステム化について検討を行い、概説することができる 《ワークショップによる体験的学習》	篠原
18	社会資源の活用・調整・開発 (テキスト 5章)	社会資源の分類と内容について列挙することができる 《ワークショップによる体験的学習》	篠原
19	社会資源の活用・調整・開発	事例を用いたグループワークで社会資源の調整と開発の方法について検討を行い、概説することができる 《ワークショップによる体験的学習》	篠原
20	ソーシャルアクションによるシステム作り (テキスト 5章)	・ソーシャルアクションの意義と展開過程が説明できる ・アドボカシーの意義と方法について説明できる 《ワークショップによる体験的学習》	篠原
21	災害ソーシャルワーク	災害ソーシャルワークの役割と意義について説明できる	篠原
22	災害ソーシャルワーク	事例を用いたグループワークで、災害ソーシャルワークの対象、時期について概説することができる	篠原
23	災害ソーシャルワーク	災害時要配慮者の施策の変遷とその背景について概説することができる	篠原
24	災害ソーシャルワーク	避難所におけるソーシャルワークの展開と視点について概説することができる	篠原
25	災害ソーシャルワーク	災害救助法の全体像と被災者支援の多様な主体・専門性を捉え、災害時の資源開発・多職種連携に必要性について説明できる	篠原
26	災害ソーシャルワーク	住民と社会福祉事業のレジリエンスを高める平時からの取組みの必要性について説明できる	篠原
27	相談援助のための交渉の技術 (プレゼンテーションの技法) (テキスト 14章)	事例を用いたグループワークで、プレゼンテーションの内容と方法を検討し、検討案を明示できる 《ワークショップによる体験的学習》	篠原
28	予防的対応の意義とサービス開発	予防的対応の意義と地域支援に向けたサービス開発の意義を説明できる	篠原
29	スーパービジョンとコンサルテーション技術 (テキスト 9章)	・スーパービジョンの意義と目的、方法、留意点を説明できる ・コンサルテーションの意義と目的を説明できる	篠原
30	相談援助におけるICTの活用と実際 (テキスト 12章)	ソーシャルワーク実践を強化させるICTの活用実態について説明できる	篠原

### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

定期試験50%、 レポート50%

### 【教科書】

社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法』第3版（2015）中央法規出版

社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法』第3版（2015）中央法規出版

### 【備考】

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「相談援助の理論と方法」に該当する。また、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」に該当する。

### 【学修の準備】

- ・本科目は「ソーシャルワーク論」「ソーシャルワーク論」との連動した科目であるため、毎回の講義の際に、準備すべきテキストや資料等について事前アナウンスを行う。学生はそれに応じて予習や準備に臨んでほしい。
- ・授業で提示する事前・事後課題（所要時間45分～90分程度）の学習を行うこと

### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2 DP1 DP4

### 【実務経験】

大友芳恵（社会福祉士）、篠原辰二（社会福祉士）

### 【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士の実務経験を活かし、ソーシャルワークに求められるメゾ、マクロのスキルに関する基本的知識を講義する。